

ほほえみ

TOTSUKA KYOURITSU DAI-1 HOSPITAL

戸塚共立第1病院の広報誌、始めました

第1病院のTOPICSやニュース、
職員紹介などお届けします。

02

2025年7月号

見えない力で、見える安心。

放射線科

放射線科は、各診療科の先生から依頼を受けて、胸部(心臓・肺)の様子や骨折などの発見、体内の臓器等の診断に役立つCT・MRI撮影、乳房の病変を発見できるマンモグラフィ撮影などの検査を行っております。患者様の負担を軽減し、短時間で安全・安心な検査を行い、迅速に有益な画像を提供するよう日々業務を行っております。



地域医療連携課

つなぐ力で、支える医療

地域を結ぶ、医療の窓口

地域医療連携課の業務は「専門的治療が必要な患者様の受入れ・病状が安定した患者様を、地域医療機関へのご紹介・重症者の高次医療機関へのご紹介」等、患者様が最適な医療を、適切な医療機関で受けられるよう、当院と他医療機関の調整と橋渡しです。患者様の意志を尊重し、最大限の医療を受けられるようサポートしています。



第1病院の歴史

戸塚を流れる柏尾川の堤近くに昭和21年5月、日本光学工業株式会社付属戸塚病院の在職者有志により独立し医療法人柏尾会戸塚共立病院(現戸塚共立第1病院)が開設されました。開設から77年、その後、令和2年4月に法人名を横浜未来ヘルスケアシステムに変更しました。

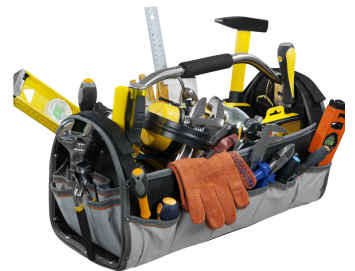
第1病院 職種紹介 特集



縁の下の力持ち 施設課

戸塚共立第1病院の施設課では現在3名で運用しています。業務内容は施設管理営繕を行っております。内容は施設の年次点検や緊急修繕を主に患者様の院内環境や職員の職場環境を保つ取り組みを進めています。

お気づきの点がございましたらお声掛け下さい。



栄養科

食べるを、治す力に。
食で支える、
いのちの力。

栄養科は患者様の病態や栄養状態に合わせた食事を通して、一日も早い回復を支援する役割を担っています。入院患者さまへは、安全でおいしく食べやすい内容の食事を提供し、月に1度は季節に合わせた行事食も企画し提供しています。管理栄養士が6名在籍し、治療効果を上げ、疾患の予防・再発の為に栄養指導も行っています。

医師の指示により予約を取りますので食事でお困りの事がございましたら、担当の医師へご相談ください。



2回目の職種紹介は放射線科、地域医療連携課、栄養科、施設課を紹介いたします。病院には多くの職種が働いていますので、少しずつご紹介していきたいと思っております。



今回インタビューした人
森保 幸治 名誉院長

今回は四月から名誉院長に就任された森保幸治先生に「仕事とプライベートの両方を充実させるための秘訣」について伺います。
先生の医師としてのご専門以外を皆さんに知ってもらえればと思っています。

先生はこの戸塚共立第1病院に来てどれくらいになるのですか？

*森保名誉院長

二年前に来て、戸塚共立第1病院の前は共立病院という名前でした。そして第2病院が新しくなって・・・時代の流れが感じますね。

法人で取り組んでいるTMGFitにも先生の患者さまが多く参加されていて、よく先生のお話を伺います。生活習慣病には運動が非常に良いとの事ですが先生はどのようなスポーツをされて来たんでしょうか？

*森保名誉院長

高校時代はヨット部でした。二人乗りの艇に乗って小さなセイルを操作していました。風と潮の流れを読まないといけないのと、相手と呼吸を合わせたりと大変ですが面白くて夢中になりました。大学時代はハンドボール部でした。身体が大きくないので人より走り回り、ボールを振り回してキーパーをかわしながら攻めるのは難しかったですね。松脂を使ってボールを指にくっ付けるというのは使っていましたね。大学卒業して就職してからは、子どもがサッカーを始めまして、

一緒にフットサルをやったり、福島の病院に勤務していた頃に冬はスキーをしたり、最近SAP（スタンドアップパドル）をやっています。
息子に誘われて。サーフボードの上に立って、やっぱり体力的にもだんだんと自分自身の筋力の衰えというものを自覚している日常があるので、波がある中で立つだけでも多分鍛えられるんですよ。

あとは、やっぱり時間をどうやって潰すのかっていうのもあって。何もしないと例えば休みの日になり一日、何もしないで過ごすしちゃう、それは残念なので。だからゴルフやる人もいるし、いろいろあると思うけど、SAPは一人で出来るので良いですよ。



シリア人として初めて日本の医師国家試験に合格したメルナ・アイルード先生が、横浜未来ヘルスケアシステム（YFHS）傘下の病院で受けていた初期研修を3月末に終了した。来日した時は日本語ゼロ。しかし、わずか6年間で、どのようにして日本語をマスターし、日本人の医学部生でも苦勞する国家試験を突破、YFHSで初期研修を受けるようになったのか。その挑戦の道のりについて話を聞いた。
（聞き手=YFHS顧問・高須賀茂文）



外国人患者と日本人医師の「架け橋」に

Q. メルナ先生は中東に位置するシリアのアレッポ生まれ、アレッポ育ちですね？

A. はい、二五歳までアレッポにいました。アレッポ大学医学部を卒業後、二〇一四年にシリアの医師免許を取得しました。

Q. 日本にいらっしやっただきっかけは何ですか？

A. きっかけは、先に来日し、薬学部博士課程を開始していた夫と合流するためでした。私の初来日は二〇一五年十月ですが、その時はまだ、夫が博士課程を終わったら他の国で専門医研修を受けようかなと考えていました。ただ、

せっかく科学のレベルが高い日本に住んでいるのだからと思い、日本語の勉強をしたり、二〇一六年一月からは慶應大学医学部でiPS細胞の研究を始めたりしました。

Q. それがどうして、高度な日本語が求められる日本の医師免許を取得しようと思うようになったのですか？

A. 研究室に入ったのは、周りにいる外国人の先生に「日本で医師国家試験に合格するのは非常に難しいから、医師免許がなくてもできる研究をやってみた方が良い」と勧められたからです。でも本当は、患者に寄り添う臨床医になることが子供の頃からの夢でした。しかし、外国の医師免許では日本で臨床はできません。それで悩みながらも数か月間、午前中は日本語学校に通い、午後は研究するという生活を続けました。しかし、二〇一六年六月、出産時期が近づいたので一旦休学することに。その間に熟考し、研究ではなく臨床医を目指す決心を固めました。

Q. 国試合格への道のりで何が一番難しかったですか？

A. 国試自体が難しいのは当然ですが、それより難しかったのは、日本で医師になる方法についての情報を見つけることでした。日本の厚生省に連絡しても、当時の私は日本語がまだ十分でなく、細かいところまで理解するのが大変でした。まずわかったのは、日本語能力試験がN5（初級）からN1（最上級）まで五段階で構成されており、そのN1を持っていなければ、そもそも受験資格がないということでした。

Q. それで猛勉強の末、N1を取得したのですね。次には、どんな審査や試験があったのですか？

A. シリアの医学部で何を学んだかについて厚生省による書類審査があり、それにパスすると、次に受けるのが日本語診療能力調査です。海外の医学部を卒業した人や外国の医師免許を取得している人を対象に、日本語で患者との面接や問診、診察、臨床所見作成などができかどうかをテストします。

Q. それらを通過後、初めて国試の受験資格が貰えるのですね。国試対策はどうしたのですか？

A. 日本人の学生と同じく、市販の参考書や予備校のオンラインコースで勉強しました。結局、合格したのは二〇二二年二月。日本に来てから六年もかかりました。



インタビューを受けるメルナ先生

Q. 国試合格後、どうやってYFHS傘下の病院で初期研修を受けることになったのですか？

A. 日本人の医学生は普通、六年次に国試受験の準備をしながら、いろいろな病院を見学するなどマッチング（医師免許取得後、初期研修医として勤務する病院を決める活動。医学生の就職活動）の用意をします。でも、私は幼い子供を育てながら受験勉強をした上にマッチングの準備までする余裕はなく、まず国試合格に集中しようと思いました。



Q. それで国試終了後に研修先の病院を本格的に探し始めたのですね？

A. そうです。住んでいる藤沢市近くの研修病院を情報サイトなどで検索すると、戸塚共立第1病院が見つかりました。



初期臨床研修を修了し、修了証を横川理事長から授与



インタビューを終えたメルナ先生（左）とインタビューの高須賀顧問（右）

Q. 将来の夢は？

A. 家庭医療に興味があるので、患者さんの幅広い健康問題に対処できる総合診療医を目指しています。今は医師としてまだまだですが、将来は、外国人の患者さんと日本人医師の心理的距離を縮められる「架け橋」のような存在になりたいと思います。

Q. メルナ先生のように、日本の医師国家試験に挑戦しようと考えている外国人留学生へ励ましのメッセージをお願いします。

A. まず、相当な量の努力が必要だと思います。でも、国試合格にはそれだけの価値があります。日本は外国人医師が少ない国なので、ぜひともがんばって合格し、臨床医として活躍して下さい。

Q. でも調べてみたら、初期研修医二人の枠にすでに十一名が申し込んでいました。それで一度は別の研修先を探しましたが、国試合格の後、もう一度病院に聞いてみたところ、一名欠員があることがわかりました。それで、第1病院にお世話になることになりました。

One for all, All for one.

地域公開講座

熱中症の対応について

7月24日(月)

参加費
無料

時間：**14:00～15:00**

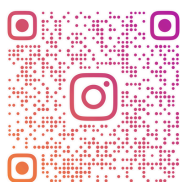
会場：ONE FOR ALL横浜地域交流施設

住所：横浜市戸塚区戸塚町157-3 1階
(戸塚小学校隣り)

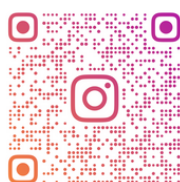
お申し込みはLINEか
お電話でお願いします

戸塚共立第1病院

公式SNS



TOTSUKA_DAI1HP



TOTSUKA1_NURSE



 **YouTube**

公式チャンネル
開設しました



医療法人横浜未来ヘルスケアシステム 戸塚共立第1病院

〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町116 TEL：045-864-2501(代表) FAX：045-864-2615

発行／戸塚共立第1病院広報委員会 発行日／2025年7月2日

表紙写真／戸塚共立第1病院 外来

※本誌の取材は十分な感染対策を行った上で実施しており撮影のため、一時的にマスクを外しています。